

◆第59回うまいくだものコンクール（ぶどう「クイーンルージュ®」部門プレコンクール）開催について

ぶどう「クイーンルージュ®」の栽培技術及び品質向上により、生産者の生産意欲の高揚とぶどう産業の一層の発展を図るため、下記によりコンクールが開催されます。

出品希望者は、果樹技術員まで申し出てください。

1. 開催日 : 9月18日（金）
2. 搬入 : 10:00～12:00
3. 審査 : 10:30～15:30
4. 一般公開 : 15:30～16:00
5. 搬入場所 : 長野県農業試験場 農業技術館（須坂市小河原 492）
6. 搬入方法 : J Aにて持込予定
7. 出品規格 : 出品希望者にお渡しいたします。
8. 出品資材 : 申込者に後日配布。一部自身で用意。
9. 申込方法 : 果樹技術員より「出品申込書」「出品に係わる留意事項」を受け取り、「出品申込書」に必要事項を記入の上、8月28日（金）までに、提出下さい。

◆ぶどう栽培日誌の提出について

ぶどう出荷予定者の方は下記期日までに今回配布した栽培日誌を提出ください。

1. 提出期限 : 8月19日（水）まで
※種なし巨峰等、収穫が早まる場合は、期日より早く提出ください。
2. 提出方法 : 地区役員さんまで提出して下さい。
※役員さんは8月20日（木）までに各流通センター・共選所まで提出してください。
3. 留意事項
 - 1) 散布したところまで記入してください。（予定は記入しない）
 - 2) 栽培日誌を確認し、法的に問題がある場合は、選果及び出荷はできません。
 - 3) 提出されず出荷された場合は、安全性が確認できるまで選果できません。
※記帳内容に不備が無いようお願い致します。

◆生育状況について

シャインマスカット・クイーンニーナを中心に「縮果症」の発生が目立つ。樹の樹齢と樹勢での発生量を確認しておくこと。

◆当面する重点作業について

1. 刈り込みすぎに注意し、下草刈管理を実施する。
2. 盆前後から8月下旬まで曇天雨が続く場合は、シャインマスカットの糖度上昇が停滞し、熟期が遅れるため園の明るさを保つようにこまめに摘心を行う。
3. 2番なりは病害虫の発生源、着果負担となるのでもう1度見回り必ず落とす。
4. 副梢の発生が多く棚面が暗い園は、適正な新梢管理を徹底する。
5. 裂果対策を徹底する。発生した場合は一部袋内を確認し、ひどいものは速やかに摘粒し被害軽減（カビ）をする。

◆品質向上・苦土欠乏対策について

- 品質向上と欠乏症として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。
1. 葉面散布：定期防除に混用散布する又は単用散布する。いずれの資材もボルドー混用可能。
- 【品質向上対策】※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	水 100ℓ 当り 調合量
モーニングシャイン	1,000～500倍	100～200ml
オルガミン	1,000～2,000倍	100～50ml
ケルパック66	3,000倍	33g
友果	500～1,000倍	200～100g

+

- 【苦土欠乏対策】※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	水 100ℓ 当り 調合量
グリーントップ70	500倍	200g
リーフマグ	1,000倍	100g

◆第13回薬剤散布について

1. 散布時期：前回散布14日以内 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量100ℓ 当り・10a 当り 散布量：350ℓ 以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
ICボルドー66D	50倍	2kg	—	べと病・さび病・黒とう病
固着性展着剤K・Kステッカー	3,000倍	33ml	—	—

3. 散布上の留意事項
- 1) 散布間隔を空けずに、定期的に棚上まで十分散布する。
- 2) ICボルドー66Dに代えて4-4式ボルドー液（生石灰 400g、⑩硫酸銅 400g）を使用してもよい。
- 3) 固着性展着剤K・Kステッカー3,000倍に代えて固着性展着剤アビオンE1,500倍（水 100ℓ 当り 66ml）を使用しても良い。使用する場合は最初に調合する。
- 4) ボルドー液は他の作物（果樹・野菜・花等）にかからないよう注意する。

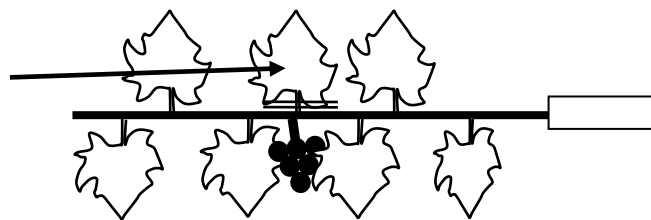
◆今後の病害虫対策について

1. 病害について
- 「べと病」「晩腐病」「さび病」の増加が心配される。発生がみられ、前回散布より2週間以上期間が空く場合は、下記の対策を実施する。
- ①「べと病・さび病」
- 遅伸びしている新梢管理の徹底を行う。発病しているものは、適切に処分する。
- ②「晩腐病」
- 発病している粒は、取り除き土中へ埋めるなど適切に処分する。袋が黒く汚れている物は中を確認。
2. 虫害
- 「コウモリガ」「クビアカスカシバ」などの食害が見られる。
- 枝を食害して樹勢を弱らせるなど症状は似ているが、食害した部分を覆うほどの大量の木屑と虫糞を出すのは「コウモリガ」になる。
- 根元の周りは除草を行い、風通しを良くさせる。
- 見つけ次第、捕殺または針金等で刺殺する。散布薬剤は、スプレー式の殺虫剤「ロビンフット」（収穫前日まで・5回以内）を食害部に散布する。

◆ナガノパープル裂果対策について・・・前回情報を参照

◆赤系品種着色管理について

1. 着色始め（クイーンルージュ®：7月下旬、クイーンニーナ：8月上中旬）から2～3週間の間の日照が多いことが着色に望ましい。
 2. 着色しやすい条件
 - 1) 強樹勢、大房、着房過多は、着色が悪い。着色不良果粒の混入の他に裂果発生が多くなる傾向。
 - 2) 着色始め約2～3週間後の時点で、ある程度の糖度が確保されている。
糖度が高いと着色が良く、低いと着色が薄いという試験結果がある。
 - 3) 着色には日照が大きく影響する。
 3. 大房になると着色不良果粒の混入が増えるほか、裂果も発生しやすくなるので、大房にならないようにする。また、棚面をやや明るめに保つ。日照が少ない年に果皮色が淡くなる傾向がある。
 4. 着色向上管理方法
 - 1) 摘葉
着色始め1～2週間後に果房上部の房に当る葉（主に房の反対側の葉）1～2枚を摘葉する。
日焼けが心配されるので高温時の摘葉は避ける。
着色・糖度は上昇するが、やや粒肥大が劣る。
糖の蓄積が不十分な場合は効果が劣る。
 - 2) 反射マルチのタイベックシートを使用する。シルバーマルチは日焼けを助長するため使用しない。
 - 3) 袋かけ替え
 - ・ 8月下旬頃に乳白色果実袋を透明袋に替える。
 - ・ 直射日光が当たりやすい果房では、袋内の温度が上がりやすいため日焼けしやすい。
 - ・ 直射日光が当たりにくい果房を利用する。
 - 4) 笠かけ替え
 - ・ 8月下旬頃に果実袋を除袋して透明笠にかけ替える。
 - ・ この場合、鳥獣害対策を行い、除袋後に薬剤散布は行わない。
- ※3) は日焼け、4) は腐敗のリスクがあるため、おススメはしてません。



◆種なしぶどう強樹勢樹の遅伸び新梢摘心等管理について

種なしぶどうで2回目の摘心後も伸長している新梢は再度摘心し、玉肥大・着色促進をはかる。

◆種あり巨峰管理について

1. 摘心をしていない園(樹)については、8月上中旬にかけて30～35葉を目安に摘心するか先端10cm前後で摘心し、枝の充実をはかる。尚、副梢も基部1～2葉残して切除する。
2. チッソ肥料をうまく効かせて、穂軸の青さを9月いっぱい保ちたい。
 - 1) 8月上中旬までにノルチッソ1袋/10a当を施用する。
3. 樹勢が弱い場合は葉面散布も合わせて行う。
 - 1) 果房の穂軸が黄変したものは尿素400～500倍液に展着剤を加用し散布する。
 - 2) やや黄変した園はアミノメリット青500倍を散布する。
 - 3) いずれも、有袋期間中に2回は散布したい(葉面散布1回の有効期間7～10日)
 - 4) 吸収効率のよい夕方散布とし高温時は避ける。
 - 5) ボルドーと混用は可能だが、高温時は葉焼けを生じるので注意する。

◆短梢仕立て樹の更新について《重要》

導入当初より短梢仕立ての寿命は、15年程度と言われている。本格的に導入され、20年が経過し、樹齢が経過してきた樹では、「縮果症」「果皮の硬さ」「食味不良」「房型不良」「花穂の欠損」「突然枯死」等の影響がでている。このため、「良品質安定生産」を継続するため、「積極的な樹の更新」をする。更新する際は、次の点を考慮し品種構成の見直しを図る。

○当JAのみならず、全国的にシャインマスカットとの占有率がかなり高まっている。(JA内70%程度)

○栽培管理が容易なシャインマスカットは増加しており黒系が少ない品種構成となっている。

○今後、シャインマスカットの単価を維持していくためには、市場消費者から求められる、他産地との差別化できる品質。また、黒系品種の増加が必要になる。

○シャインマスカット偏重になると、管理作業・収穫出荷の作業配分が困難となり、品質低下や面積拡大による、農業所得増加にも課題となる。

○黒系品種は、新たな品種が明確になっていない状況であるため、「ナガノパープル」を中心にし、「巨峰」「ピオーネ」を再検討していく必要がある。

◎樹更新の際は、上記の点を考慮し、ぶどうのさらなる生産振興により、農業所得増加を目指す。

更新に係わる相談は、果樹技術員まで積極的に相談ください。

※なお、更新の際は、伐採後の植え替えではなく、既存樹を生かしながらの「追い出し剪定」での更新を行い、著しい収量低下をしないよう、取り組むする。